

第1学年 国語科の実践



1 単元名 「いきもののあし」

2 単元目標

- 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。
- 語や文としてまとまりを考えることができる。
- 事柄の順序に気を付けて読み、文章の大体を読むことができる。
- 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聞く・話すの指導について>

学習中では、「おわりまできく、うなづきながら、じっくりかんがえて」を常に心がけるよう教室に掲示したり、声かけを行ってきた。教師や友達の話の聞こうという姿勢を指導中である。しかし、算数で式や答えが同じ時は、どの児童も「同じです」と反応することができるようになってきた。よい考えが出た時には、「いいね」と反応できる児童も中にはいる。また、聞こえなかった時は、「聞こえなかったのもう一度言ってください」と伝えるよう指導している。

話す指導は、堂々と自分の考えを伝えることができる児童は、一部である。人前で発言することに抵抗を感じている子が多く、勢いよく「はいっ!」と挙手したものの声が小さく伝わらない場面が多い。そのため「自信をもって大きな声ではっきりと言おう」と声掛けをして指導している。ペアトークを取り入れながら自分の思ったことを話している児童がいる一方で、何を話してよいか分からない児童もいるため、個別に声掛けをしている。

4 単元と指導について

<単元について>

本教材「いきもののあし」は、児童が初めて出会う説明的文章である。「あひる」「らいおん」「だちょう」のそれぞれの足の大きな絵とその生き物のきれいな写真は、子どもたちの興味をそそる。さらに、初めのページに足の絵と「問い」が書かれていて、ページをめくると次に生き物の写真と「答え」があるというクイズのような構成は子どもたちに親しみやすい。あひるやらいおんという生き物は普段から絵本や図鑑などで目にしたり、鳴き声をまねしたりするので、身近に感じられる生き物である。しかし、足に注目してきたことは、ほとんどないと考える。足に焦点を当てると足の働きやえさの食べ方など、生き物の生活が見えてくる驚きとおもしろさに、児童は興味を持ち、生き物に対する自分の学びも高められると考える。また、文型も、児童が興味を持って読み進めていけるように工夫されている。1文は、「これは、何の足でしょう。」と問いかけている。2文は「これは、〇〇の足です。」と答えを述べて、3文は、足の描写、4文は、「だから、～。」と足の作りの良さを説明している。特に「これは何のあしでしょう。」「これは、〇〇のあしです。」という文型が3回 繰り返されていることが特徴的で、文型に慣れやすい。文章全体を通して説明されている事柄を 順序正しく読み取り、1年生なりに論理的思考を養うことも期待できる教材である。

<指導について>

児童にとって、初めての説明文である。そこで、「なぞなぞあぞび」や算数の問題作りなどクイズを作る楽しさや「問い・答え・ヒント」を意識させながら、本単元の学習につなげていく。そして、学習課題を「クイズブックを作って、作ったクイズを、2年生に出そう」と設定することで、相手意識や読みの必然性が生まれ、児童の学習意欲を喚起することができると思う。まず、オリジナルクイズをつくるために、どんなことが書いてあるのかという意識で読み進めていく。「いきもののあし」の教材文を読んで、「問い」と「答え」の関係を見つけながら内容の大体を読み取らせたい。「問い」→「答え」→「説明1 足のつくり・特徴」→「説明2 はたらき」という四文のつながりをとらえるために、写真と文とをつないで説明をさせたり、接続語「だから」のはたらきを考えさせたりする。次に、3種類の生き物を比べながら読ませることで、文章構成や、足の形態はえさを摂取することと関連していることに気づかせ、いきもののあしクイズブックを書く時に活用させる。クイズ作りでは、全員で遠足に行った野毛山動物園のいきものについて、「いきもののあし」の教材文で学んだ文型を元にクイズを作る。そして、そのクイズ作りの方法を活かして、なるべく自分の力でクイズ作りに取り組めるようにしたい。ただ、個人差があるので、自分で生き物を決められない児童や説明の仕方が分からない児童のために何種類かの画像や絵本や図鑑をあらかじめ用意したい。最後に、クイズを友だちと一緒に楽しむ活動や2年生にクイズを出す活動を取り入れることにより、学習の達成感も味わわせ、入門期の学習として楽しめるようにしたい。入門期の子どもたちであるため、生活「はるのいきものをさがそう・こうえんへいこう」算数「かず」音楽「でんでんむし」図工「じっくりみて、いきもののえをかこう」と合科的な扱いで、本単元も位置づけている。生き物を見て、触れて、調べる活動を通して、ぬいぐるみや絵本の中での動物だけでなく、自然の中にいる生き物の暮らしを知ることの楽しさをみんなで共有し、「生きる」ということについて、1年生なりに気づいてほしいと願っている。

ここでの解決したい課題は、動物クイズをつくりたいそして、友だちに出したいということである。自分たちが興味のあることを調べ、クイズシートの形に表し、それを友だちと楽しむところに思考することや関わることの意味を知ると考える。また、本時では、これまでの学習を生かし、あひるの足の作りだけでなく、獲物や居住地と足のつくりの関係性に気づいたことや考えたことを話し合う姿をひびき合う姿としたい。また、この話し合いが、「生きているということ」を、考えるはじめの一歩にしたい。

5 単元構想 国語科「いきもののあし」 全 10時間

単元目標

- 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。
- 語や文としてまとまりを考えることができる。
- 事柄の順序に気を付けて読み、文章の大体を読むことができる。
- 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。

< 総合的な学習 >

国語

「ともだちとはなしましょう」
・友だちのことを知るの楽しいな
「たぬきのじてんしゃ」

生活 「はるのいきもの」

- ・たくさん生き物を捕まえたな
- ・野原にはたくさん虫がいる
- ・どんな虫がいるのか調べたいな。
- ・育ててみたいな
- ・調べたことを、クイズにしたいな

図工

「虫の絵を描こう」
・本物みたいにかきたいな
・図鑑をよく見て描こう

音楽

「でんでんむし」
・あたま、つなどの体のつくりの言葉っていっぱいあるんだな

朝の会・帰りの会

なぜなぞあそび
・クイズに答えるのは楽しいな。

生き物の足の特徴や働きに関心をもち、読み進めることができる。(関意熊)

いきもののあしを読もう①

野毛山動物園の地図を用意し、どんな動物がいるか知り、関心を高める。

- ・上野動物園行ったことがある
- ・ゾーラシア行ったことがある
- ・野毛山動物園は行ったことないな
- ・レッサーパンダ観たことない
- ・きりん観たことあるよ
- ・楽しみだな～

野毛山動物園に行こう（遠足）6/30

- ・動物がいっぱいだね
- ・さるもいたよ
- ・野生のりす見たよ
- ・飼育員さんの話が聞けたよ

絵本や図鑑を用意しておく
おもちゃのパワーアップを図ったり十分遊んだりする時間をとる。
困り感を共有し、解決策を話し合う時間を設ける。

どんな動物がいたかな②

クイズランドをやりたい

- ・楽しかった
- ・レッサーパンダ可愛かった
- ・本当にダチョウの足の指が2本だった
- ・熊の爪がとがってた
- ・本とかで調べないと！
- ・説明を覚えなさいといけな
- ・フラミンゴがあひるのになていたよ

これは何の足でしょう？（あひる、らいおん、だちょう）③④⑤

動物図鑑や動物の秘密が書かれている絵本を準備する。

②「これは何の足でしょう？ あひる」

-
- ・あひるのあしって、みずかきがついているんだね
 - ・はやくおよぐためなんだね。
 - ・みずかきがあるから、すいすいおよげるんだね

③「これは何の足でしょう？ ライオン」

-
- ・くまみたいだね
 - ・つめはないんだね
 - ・つよいのに、そっとちかづくんだね。
 - ・説明の文には、作りや特徴が書いてあるんだね

④「これは何の足でしょう？ だちょう」

- ・おおきいのに、にげるためになるんだね。
- ・はやくはしるためにあるんだね
- ・生きるために、足の形が違うんだね
- ・作り方が分かったから、じぶんでつくってみないな

答えの文をオレンジ色、仕組みの文を赤色、動きの文を青色で教科書に記しを付け分かりやすくする。それぞれの動物を模造紙にまとめていく。

絵や写真と文章を結びつけながら、それぞれの動物の足の特徴や働きをとらえ、文章の大体を読むことができる。(読む)

ふらみんごをしろ⑥

- ・飛ぶなんて初めて知ったよ
- ・泥の巣を作ることを知ったよ
- ・えさは赤いものを食べているんだ
- ・6日間ひなは巣の中で過ごすんだね

あひるとふらみんごをくらべよう⑦（本時）

- ・足が細くて長い
- ・ひれが付いている
- ・ピンク
- ・1本足で立てる
- ・ふらみんごは、空を飛べる
- ・もっと動物を詳しく調べたいな
- ・他の動物も調べたい
- ・自分でクイズを作って友達に出したいな
- ・お客さんを呼びたい

あひると比較しながらフラミンゴの特徴を捉えるよう表にまとめていく。

他の動物クイズを作ろう⑧⑨

「問い、答え、様子、だから～動き」の文になるよ前時までの学習を生かすようにする。

知っていたり調べたりした動物の足の特徴や働きを説明する文章を文と文との続き方に気を付けて書くことができる。(書くこと)

- ・レッサーパンダのクイズを作ろうかな
- ・チンパンジーにしようかな
- ・本で調べてみよう
- ・説明を覚えなきゃね
- ・絵も綺麗に書かなきゃ！
- ・お客さん呼びたいな

クイズランド⑩

- ・いろいろな動物のことが分かった
- ・楽しかった
- ・〇〇ちゃん、動物博士みたいだった！
- ・動物園に行きたくなってきたな

6 本時の目標

教科書で学習した、動物の足をもとに野毛山動物園にいる動物の足の特徴や働きについて話し合い、説明文を書くことができる。

本時の展開

	指導上の留意点、評価								
いきもののあし あひるとふらみんごのあしをくらべてみよう！ ○あひるとフラミンゴを比較する <table border="0"> <tr> <td>(あひる)</td><td>(フラミンゴ)</td></tr> <tr> <td>・水かきがあるから泳げる。</td><td>・水かきがあるけど・・・。</td></tr> <tr> <td>・飛べない。</td><td>・飛べる。</td></tr> <tr> <td>・爪がある。</td><td>・爪がある。</td></tr> </table> なんでふらみんごにもみずかきがあるのかな。 ○予想を立てる ・水のところに住んでいるから。 ・水を飲む時に必要だから。 ○フラミンゴの映像を観る ・飛ぶ時に蹴るため。 ・滑り止めのため。 ・泥の上を歩くため。 ○フラミンゴのクイズを作る 問い これは、何の足でしょう。 答え これは、フラミンゴの足です。 仕組み 足には、水かきがついています。 だから、泥の上を歩くことができます。 だから、泥の上を走って飛ぶことができる。 ○感想を書く ・なんで水かきがあるのか分かった。 ・泥の上を歩くのを知った。	(あひる)	(フラミンゴ)	・水かきがあるから泳げる。	・水かきがあるけど・・・。	・飛べない。	・飛べる。	・爪がある。	・爪がある。	○前時までに学習した、「問い・答え・説明」を確認する。 ○足のしくみとできることについて、<u>だから</u>でつながっていることを確かめる。 あひるとフラミンゴのあしをくらべよう ○フラミンゴの足について学習したことを想起する。 ○あひるの足とフラミンゴの足のつくりについて、動作化をする。（手を足と見立てて） ・とべる、とべない ・つめがある ・みずかきがついている ・足が長い、短い ○あひるの足とフラミンゴの足で似ているところはどこかに注目する。 ○なんで、フラミンゴにもみずかきがあるのか自分なりに予想し、話し合う。 ○フラミンゴの足に注目するよう、映像を観る。 ○映像をもとにフラミンゴがどこの上を歩いていたのか、何ができるのかに注目して話し合う。 ◇あひるとフラミンゴの足のつくりや、できることが違う理由について動作化を通して考え、生態系が異なることを知る。 【観察・発言・ワークシート】 ◇意欲的に発言したり友達の意見を聞いたりしているか。 ○「だから・・・」の続きを書き、次時の学習で自分の気に入った動物についてクイズを作ること知らせる。
(あひる)	(フラミンゴ)								
・水かきがあるから泳げる。	・水かきがあるけど・・・。								
・飛べない。	・飛べる。								
・爪がある。	・爪がある。								

7 実践を終えて

《子どもとどのように単元を作ってきたか》(本時まで)

この単元は、遠足で行く野毛山動物園との学習を関連させて学習を進めていった。野毛山動物園では、「いきもののあし」に注目できるよう、足に注目させるワークシートを作り野毛山動物園に見学に行った。飼育員に足の役割について説明してもらった。いきものの足について実際に目に触れ動いていることを体験させた。そういった体験学習を基盤に、教材を読み取っていくとクイズランドをやりたいという想いが出てきた。しかし、クイズをする時は、本や図鑑で動物について調べる必要があることと、説明できるようにならないといけないという問題がでてきたのである。そこで図書室に行って動物について調べ学習を行った。あひるの学習をした時に「あひるとフラミンゴの足は似ている」という気づきがあがった。そこでフラミンゴに興味を持ち始め、フラミンゴについて知る学習を行った。フラミンゴが赤い餌を食べたり空を飛んだりすることを知った。動物園でいつも目にしているフラミンゴの姿とは違って、初めて知ることが多かったのである。

本時では、あひるとフラミンゴの共通点や相違点を比べることになった。子ども達は実際に動物園で観に行ったフラミンゴを思い出したり、前時で学習したフラミンゴの知識を元にあひるは泳げる、フラミンゴは飛ぶといった共通点と相違点を見つけたりすることができた。まずは、自分なりの予想を持たせて、動作化を行った。「水かきを使って体を支えているから」、や「水辺に居て飛ぶから」といった予想ができた。泥をかいたり、泥の中を歩いたりしている映像を観て再度、動作化を行った時に「ねちょねちょ」という歩き方に変化していた。映像や実際に目にしたことを基に居住地と足の関係性に気づき、自分なりに表現することができていた。自分の経験や知識を基に予想を立てながらの話し合いとなれば、よりよい話し合いになり、ひびき合うことができたと考える。

《成果と課題》

本時は、教材と関連して野毛山動物園に行ったため、子どもたちは、「いきもののあし」について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができた。飼育員の話聞いて知り得た知識と経験から新たに発見したこと、疑問に思ったことを素直に発言する姿も多く見られた。一方で、意欲的に発言する子に偏りがあったため、同じ意見でも自分の言葉で伝えたり、一つの考えからみんなで言葉を付け足して考えを広げさせ、さらに学びを深めることが必要であった。動作化を行った際は、一人の児童の動作が見えるように環境の作り方を工夫するよう机の位置やオープンスペースに移動して行うなど場の工夫をする。友達の考えを受け止め自分の考えを素直に表現できる児童の姿になるよう今後も指導していきたい。また、言葉でイメージを伝え、表現を言語化していくことも必要であった。動作化によって見えるようになった個人の表現を全体で交流していくことで考えが広まり、個人の表現の変化も深め、「なぜその動きになったのか」と言語で伝えることも必要であった。

教師として子どもたちのつぶやきを拾ったり、言葉を付け足していけるように意図的に指名をしたりといった教師の出所が今後の課題である。